

**第 4 次地域福祉計画策定に向けた
住民参加型会議「地域を語り合う座談会」
実施報告書**

平成 3 1 年 3 月

1 座談会の目的

第4次地域福祉計画の策定に向けて、地域住民から地域の課題や解決に向けたアイデアを直接お聞きするため、市内3地区（北部・中部・南部）に分けて「地域を語り合う座談会」を開催しました。

2 座談会の開催結果

(1) 中部地区 P.2 ~ P.14

- ① 座談会の概要
- ② 座談会での主な意見
 - ア) 地域内の課題に関する意見の概要（各班）
 - イ) 主な意見一覧

(2) 北部地区 P.15 ~ P.23

- ① 座談会の概要
- ② 座談会での主な意見
 - ア) 地域内の課題に関する意見の概要（各班）
 - イ) 主な意見一覧

(3) 南部地区 P.24 ~ P.31

- ① 座談会の概要
- ② 座談会での主な意見
 - ア) 地域内の課題に関する意見の概要（各班）
 - イ) 主な意見一覧

(1) 中部地区

① 座談会の概要

開催日：平成 30 年 10 月 29 日（月）参加者 28 名

平成 30 年 11 月 14 日（水）参加者 23 名

地域の課題について意見を出し合っていたところ、自治会に未加入の人が多く、役員の高齢化、「顔が見えない」関係により情報共有等が進まない、ゴミ出しのルールを守らないなど「地域の住民」としての意識の低下を感じる、などといった意見がみられました。

次に、あがってきた地域の課題を踏まえてテーマ（顔の見える地域づくりの実現、地域における支え合いの担い手づくり）を設定し、課題解決のためのアイデアを話し合っていました。

その結果、地域のお祭りや地元の行事などをきっかけとして、誰でも気軽に参加できたり、子どもから企画に参加できたりするイベントの企画、住民同士が自由に話し合うことができる場づくり、地域活動専任の担い手づくり、団体同士の連携などによる団体の魅力向上、などのアイデアがあがっていました。

「課題解決に向けたアイデア」

■顔の見える地域づくりの実現

- ・あいさつや声かけは大切
- ・イベント（運動会、文化祭、お祭り、もちまき、定期的な会合等）を通じて地域住民同士が顔を合わせる機会を増やす
- ・公民館活動や自治会活動で子どもがらみの行事を行うことで参加を呼びかける
- ・活動に理解のある人を探したり、現在ボランティアをしている人の支援をしたりするなど、イベントを企画できる人を探す
- ・自治会組織における組単位、班単位での自由討論の場をもつ

■地域における支え合いの担い手づくり

- ・「大人が変われば子どもも変わる、子どもが変われば地域も変わる」というテーマで、親子が参加できるイベントを企画する
- ・「専任専門員」として、地域活動に専念できる人を養成する
- ・「防災リーダー」の事例を福祉に活かし、「福祉リーダー」を育成する
- ・地域の中で「あれ？」と思ったことを発言できる場づくり
- ・各組織の活動の魅力を高める（女性が活躍できる組織、団体同士の連携など）
- ・学校や企業への地域活動参加への動機づけを行う
- ・現役世代でも参加できるよう行事を見直す
- ・多くの団体が組織的に1つにまとめ、活動できるようにする



② 座談会での主な意見

ア) 地域内の課題に関する意見の概要（各班）

(A班) 地域での支え合いが難しくなっていて、環境面での問題や安全面での不安もある

普段働いていることで地域のことができない人が多く、町内会に入会しない人が多い町は、地域としてのまとまりができていないということでした。このことによって、役員の高齢化が進んでも担い手がいない、という課題があげられました。

また、隣同士のあいさつが少なく、また、マンション内でも交流が少ない状況であり、最近では表札がないので隣の人ですら分からないこともあるとのことでした。若い人たちとの交流も少なく、個人から地域への連帯感を感じることがない、という意見でした。こうした状況から地域への関わり方が分からない人もいるのではないかということでした。

環境面では、ごみの散乱がひどく、出す時間が定まらない状況にあることや、溝のゴミが流れず衛生的に非常に悪いといった意見があげられていました。

安全面では交番が少ないことへの不安感、車いすが安心して通れる道路や舗道、夜間の照明が課題としてあがっていました。

そのほか、高齢者に関する課題として、買い物が困難、独居世帯が多く連絡がつかない、独居高齢者がどこにいるのかが分からない、といった課題や、子どもに関する課題として、町によっては、公園がなく駐車場で遊んでいる実態をあげていました。

(B班) 交流がない「高齢者と若者」「転入者と以前からの住民」、地域の住民としての自覚を

高齢者と若者が交流する機会がないことや、転入者（特にマンション）と以前からの住民とのコミュニケーションの場がないという課題があがりました。

地域住民としての自覚がない人がいて、回覧板の回覧を拒否する住民もいるということでした。自治会や子ども会への加入率は減少しており、加入者に対しても自治会費の徴収に困っているとの意見があがりました。

民生委員に関しては、民生委員を知らない人がいること、一人暮らしの若者で困っていることが分からないことがあがっていました。

そのほか、地域でのごみ出しに協力的でない人がいて困る、空き家があるかどうか分からないといった意見がありました。

(C班) 地域活動の担い手の高齢化・兼任問題、交通や空き家・空き地の安全性に課題

老人会、子ども会への加入率が下がっており、地域の活動への参加が少なくなっていることがあがっていました。また、若者が参加しないことによって役員の高齢化や兼任の課題があるとの意見も出されました。

地域の中で訃報が届かなかったり、イベントへの参加に若者が少なかったりする実態もあがっていました。

環境面では、植樹帯の草刈りができていなくて通学路でもある道の景観を損ねていること、道路整備で交通量が増えたことで保育園、公園に行く児童の安全を確保する必要があること、空き家や空き地の管理ができていないことで火災や盗難の心配があること、といった意見がありました。

その他、高齢者が買い物で不便に感じている問題、単身世帯の高齢者の生活が気になるといった意見がありました。

(D班) 地域の担い手や交流を促す取組が必要、見守りや防災面での支援が必要な人がいる

地区委員や民生委員のなり手がいないことが課題としてあがっていました。地域の活動に参加してもらうため、老人クラブの会員で得意なことをボランティアで手伝う、マンションに住む若い人達を参加させる、有償ボランティアを促進する、ボランティアのポイント制といった意見があがっていました。

地域内での交流に必要性を感じており、向こう三軒両隣で知り合うための工夫が必要、サロン参加のための経済的な支援、といった意見があがっていました。また、家族が同居していない人をどう見守るか、男性ひとり暮らしの孤独死に対する心配、という意見もありました。

安全に関しては、自主防災活動で参加者が少なくなっていること、避難など要支援者に対する災害時の対応ができるか心配、という意見があがっていました。

また、高齢者の移動手段の確保に関する意見もみられました。

(E班) 地域の絆の弱体化を懸念し、生活上の移動への支援や、地域防災力の向上が必要

自治会や子ども会の加入率が低下していて、住民が本業や子育て、介護に忙しく、「地域」に対する意識が広まっていない、アパートやマンションが増え人口が増えても絆が弱体化していることが課題としてあがっていました。また、サロンなどの交流の場づくりにおいて、企画する人や場所、資金が不足しているという意見もありました。

環境面では、移動に関する意見が多くあがり、具体的には地区にスーパーマーケットがなく買い物難民になっているところがある、バス停までの距離が遠くて移動困難、自動車免許の返納による行動範囲の縮小といった意見がみられました。そのほか、人口増加により信号機や横断歩道が必要な箇所があるのではないかと、ゴミの分別のルールが乱れているのではないかと、といった意見もありました。

安全面では、地域コミュニティの有るべき姿を考えた上で福祉と防災のコミュニティづくりにより地域力を高める必要がある、災害時の安否確認、救護体制等の災害弱者支援が弱いといった意見があがっていました。

また、高齢者の世話をする人が高齢化しているという意見があがっていました。

イ) 主な意見一覧

○地域内の課題

(A班)

分野	意見
地域コミュニティ（交流）	隣同士のあいさつが少ない
	お互い様に通じる地域
	最近では表札がないので隣の人ですら分からない！
	地域コミュニティの場所の充実やPR
	若い人達の交流が少ない
	世代間の交流
	マンションの人達の交流が少ない
	個から地域への連帯がない
	町づくり（仲間づくり）を進めていくために
	町づくりで少しずつ仲間意識ができ始めている
地域コミュニティ（組織）	自治会への加入（要支援者）（地域からのすすめ、行政からのすすめ）
	働く人が多く地域のことができない人が多い
	地域の役員の担い手がいない（高齢者が多くなった）
	マンションの人達、地区の維持費を払わないので困る
	町内会に入会しない人が大半いる。（まとまりができない）
	班長の受持ち世帯数がバラバラとなっている
地域の理解	少しの我慢が必要
	車のマナー（桜地区は企業に出入りする他からの車が多い）
	市縦貫バスのマナー
	他人を信用できる地域に
	地域へのかかわり方がわからない
	民生委員にたよっても非常にきびしい
	個人情報が公開されていないため実態が不明である
地域の環境	ゴミの散乱がひどい、出す時間が定まらない
	ミズのゴミが流れない、衛生面で非常に悪い
	歴史的資産の利用（自然、おじぞう様など）
地域の安全	交番が少なく、安全でみると不安である
	地域の治安
	車イスが安心して通れる道路及び舗道
	バリアフリーのエリア拡大
	夜間の照明

分野	意見
高齢者支援	スーパーが遠くて年寄りが大変である
	同居家族が少なく年寄りが多い
	年寄りの集合場所が判らない、呼び掛けがとどかない
	ひとり暮らしの世帯が多く、連絡がつかない
	独居老人がいるのか不明である
	高齢化と 14 才以下の比率
子どもの居場所	下重原地区に子ども達が遊ぶ公園がない←駐車場で遊んでいるから

(B班)

分野	意見
地域コミュニティ（組織）	地域の住民としての自覚の無い人がある 防災訓練や 530 運動への参加者が少ない
	回覧板の回覧を拒否する住民がいる 地域の情報共有がうまくいかない
	自治会への加入率 50～60% 減少
	自治会費の徴収に困っている 払わない人がある 市役所発行の印刷物のみ配っている
	子供会の加入者が年々減少している
地域の理解	民生委員とは何ぞや…！
	民生委員の方が地域住人を知らない方が多い
	福祉の内容を市民が知らない
	若い夫婦の地区に対しての無関心さがあり困ることがある
地域コミュニティ（交流）	老人と若者との接する機会がない!!
	転入者（特にマンション）と古参者とのコミュニケーションが無い（場）
	一人暮らしの若者で困っている人がわからない（民生委員の対象外）
	自分の周りの世帯で一人暮らしかどうか分からない
地域の環境	例えばゴミ出しなどは地域収集に出している（税金を払っているから当然という考えかもしれないが…）のに地域に協力する姿勢がない人がいて困る
	空き家かどうか分からない!!

(C班)

分野	意見
地域コミュニティ（組織）	婦人会→赤十字、保健推進員となり、地区の行事にも同じ人が出ることに！
	老人会の加入率が低い
	子供会の加入率が低下
	子供会に入る子も少ない
	若者の参加が少ない
	自治会の参加が少ない
	お祭りの役員がいない
	地域の委員のなり手がいない→役員の高齢化、兼任
	高齢者に対しボランティアが支援されているが、ボランティアの人が高齢者になってきている
	地区のえらい人が地区長になり得る地区委員を選べというが地区長として選べない、人が少ない
	自主防災会の地域役員の位置付け（規則、障害保険、辞令交付、任期）
ボランティアでは動かない	
地域コミュニティ（交流）	地域内での訃報が届かない
	家族葬と連絡がきたときにおまわりはどうする？
	まちの中に動ける人がいない
	人が集まらない
	地域での見守り（福祉委員会、地区の自主防災会）、市の法規で位置付け
	刈谷 今年のもち投げ 42歳13人、25歳9人 今後心配
地域の環境	ひまわりまで遠い（アクセスが悪い）
	9つの公民館を回るのは大変
	街路樹の剪定 通学路であり障害、事故の恐れ
	電線地中化で街路樹が消えた
	植樹帯の草取り（のび放題）昔は年2回、今は10月中旬、年1回、通学路、美観上悪い
	側溝のふたをつけるのに3年かかるので人に対して安全に欠け楽に歩けない
	今回、熊と大府で便利な道ができた 交通が増えて、保育園、公園に行く児童があるので、信号をつければ安全になる
	空き家、空地の管理、火災、盗みの心配

分野	意見
高齢者支援	高齢者世帯が増え買物をするのが大変という声を聞いた 重原地区
	移動販売運転手がない
	お年寄りの買物が不便→近くにお店がない
	単身老人の生活、健康面の心配 声かけ

(D班)

分野	意見
地域コミュニティ（組織）	老人会の会員に得意なことでボランティアを手伝ってほしい
	地区委員のなり手が少ない、65～70歳まで働かされる社会が問題！
	高齢化（活動者）
	サロン会雨が降ると参加できない
	マンションがどんどんでき、若い人達が増えている その人達を自治活動に参加させていきたい
	婦人会、子ども会の役員の方々が参加してくれると活動が活性化するが、委員のなり手がなくなる
	地区活動がめんどくさい
	やると役員やらなくちゃいけない
	組に入らない人も出てくる
	有償ボランティアを促進する
	ボランティアのポイント制度も検討の余地あり
	民生委員さんが助けねばならない人が多すぎる
	民生委員の増員が必要、細かいことまで面倒見切れない
	民生委員の負担が大きすぎないか、どこまでプライバシーを守るためにできるか
	民生委員のなり手がいない
地域コミュニティ（交流）	しくみとしてできあがっている→ボランティア精神が大切
	お金を出してほしい タクシー券、公民館集まり、サロンへの参加→特に雨が降ると行けない
	70代現役時代→仕事で忙しい
	基本は向こう三軒両隣に知り合うための工夫を考えることが必要
	地域のきずなをどうつくる？

分野	意見
地域の環境	家族が同居していない→亡くなると見る人がいない
	男性ひとり暮らし、孤独死を心配されている
	ゴミ0運動に町内の老人会子供会が参加している町内とそうでない町内の差が大きい
地域の安全	防災も大変!!
	自主防災活動する中で地域の人々とのつながりを作っているが、参加者が少なくなっている
	見守り隊→防災との連携
	要支援者の災害時の対応ができず、地域の力でやるには限度がある
	要支援の人に（要介護にならないように）できることがあるか？
	どうやって避難するのか
高齢者支援	高齢者の交通手段をもっとよくなるために金を投入できないか
	高齢者のために公民館までの足があると良い

(E班)

分野	意見
地域コミュニティ（組織）	敬老会において本人に案内を持って行っても不在(住んでいない) 連絡が取れない
	「自治会」の組織率低下（担い手不足）
地域コミュニティ（交流）	地域の交流の「場所づくり」のためのサロンづくり、イベント等を企画する人、場所、資金不足
	高齢者同士が集まる場所があまりない
	顔を見たら声をかけあえる
	近所とのつきあいがない
	地域コミュニティの劣化 アパート、マンションが増え、人口が増えても絆が弱体化するばかり
	「健幸長寿」を満喫 まちがっても長生きして苦しい、不幸、早く死にたいと思わせない社会にしたいものです その為に「啓発」重要 知識の蓄積が大切です

分野	意見
地域の環境	地区にスーパーマーケットがなく、買い物難民になっているところがある
	住んでいるところにエレベーターがない、不自由（5階）
	公共バスの停留所までの距離が遠くて少し離れたところへ移動できない
	自動車運転免許を返納してしまい行動範囲が狭くなってしまう家族がある
	人口が急に増えた地区があり、信号機や横断歩道が必要なのに整備が遅れている
	刈谷市のゴミ出しのルール（分別）がみだれる時がある。（外国人労働者の居住がある地域か）
	公民館が遠くて参加できない
地域の安全	もう一度「地域コミュニティ」のあるべき姿と「福祉と防災コミュニティ」づくりを通じた地域力の強化、本気で取り組みましよう
	地域の自治会に加入していない家族が多く、地区の連携が十分届かない点が多くある
	班長が半年でかわってしまうところがあり、地域内での連携が不足してしまうところがある
	地区の役員（地区委員）が単年度で終わってしまい問題点が未解決のまま年度交代になることがある
	地区社協を立ち上げるための組織づくりがうまくできない
	地区長→地区委員→班長 たてのつながり
	「婦人会」の崩壊、赤十字や保健推進員の成り手不足
	子どもが多い地域と子どもがとても少ない地域の差がある
	子ども会加入者の減少
	「子ども会」の組織率低下、7団体→3団体→1団体とまとめたがとうとう50人を下回った
	「福祉」への理解不足 本業や子育て、介護に忙殺され、「地域」へ意識が広がらない
日頃の見守り体制、災害時（緊急時）の安否、救護体制等弱者対策が弱い	
高齢者支援	高齢者の世話をする人が高齢になり世話をすることが困難な家庭がある

○課題解決に向けたアイデア

テーマ	取組の説明
<p>「顔の見える地域づくり」の実現</p>	<p>住民同士が顔を合わせる機会を増やす。現在地域で行っているイベント・親子運動会（子どもと親）・夏祭り（一般、子ども～大人まで）・敬老会（お年寄り）・文化展（趣味）。実施主体は地区委員会、公民館（婦人会、子ども会含む）、赤十字奉仕団、趣味の会。この他に老壮会などの行事もあるようだが、PR 不足のためか私はあまり知識がないが…。もっとイベントを増やして、住民の交流の機会を増やすと良いが、担い手の問題にブチ当たってしまう。神社他のボランティア活動団体とのタイアップを今後考えると良い。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・マンションで自主管理しているところは、定期的に会合をして顔合わせが行われている。 ・ボランティアがやれるゆとりが必要 ・顔が見えるといろいろと進めていける ・イベントを多くする ・人材育成（リーダーシップ）
	<p>熊野神社のお祭りでは、小学6年生が卒業記念でもちを投げる。 隣の人の顔を見るということで行事の参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子運動会 ・夏祭り、盆踊り ・文化展 地元+地元以外の敬老会 <p>道で出会う人とあいさつをする</p>
	<p>1. 地域でのいろいろな行事を行い、人を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会、文化祭、お祭り等いろいろあるが、行事の数及び頻度を上げて実施する。 ・自治会組織における組単位、班単位でのワイガヤ的な自由討論の会を持つことも一つの案 <p>2. 行事をしかける人、企画する人はどうするか。これが一番難しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理解活動、余裕のある人さがし ・現在ボランティアをやっている人の支援から始める ・活動しやすいように資金面のバックアップ充実
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現在行っているサロン、行事等への参加を増すためには、市より補助金が必要。金がかかる！！ 2. ボランティアという名で金を使わなくてよい項目はないよ！！ 3. 個人的に行っている事業。自治会、公民館で協力できないか。 4. あいさつ、声かけが大切！！
	<p>公民館、自治会活動への参加呼びかけ。積極的に。転入者への参加（役）は根気よく（3回）子どもがらみの行事を行うことで（運動会等）親もついてくる。</p>
	<p>敬老会（今年は78歳以上より）の補助金（市+社会福祉協議会）を増額すれば、多くの人に参加するかも？公民館では、やめるか！補助金を増やせ！</p>

テーマ	取組の説明
「顔の見える地域づくり」の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の公開 ・お互い様と思いやり ・向こう三軒両隣 ・ボランティアはありえない ・みんなで福祉 成人式と敬老会の同時開催
	人、まち、えがおのふれあい祭り →地区の住民が出やすい場所作り →カレー作り、ミニ白バイ、消防車、昔の遊び、おやつ作り、もちつき →ボランティアとして中学生の参加 →参加した親子らに声かけして顔を知ってもらう。 →街中での話しかけ！
	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館活動を中心に 地区委員、婦人会、子供会、老人会役員が母体 ・中部地区は、ふれあいまつり、子ども運動会、ゴミ0。盆踊り、避難訓練等のイベントを通して地域の輪を広げている。伝統的な万燈祭。大名行列の担い手が減っていて維持が難しいが、コアの活動として大切にしていく。 ・結局、役員の担い手がないのが問題で、解決には堂々巡りになってしまう。
地域における支え合いの「担い手」づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力があれば、やってもらえるのでは？ →どう引き出すかは要検討 ・内容がわからないまま、活動が進む。 →事前にやるべきことを明確にする。 (例：保健推進員、赤十字奉仕団 etc) →情報開示が大切か？ ・やりたくなるチラシづくり ※地域だけに任せず、市、社協からも発信を。
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事（レクリエーション、防災訓練、コスモス祭り、神社祭礼）等のコミュニティの場からの地域役員の若返り。「次の世代への担い手のバトンタッチ」 ・地域全員へ役を付ける ・地域行事へ自治会未加入者の子どもを参加させる ⇒自治会加入者増 →次の担い手づくり
	専任専門員制度 ①業務に専念できる人を養成する ②相談窓口をつくる ③地域の皆が担当できるよう多くの人を担い手にする ④若年（→学生等も）から老人（元気な人は全員）まで担当をつくる ⑤家族で参加できる活動をつくる

テーマ	取組の説明
地域における 支え合いの「担 い手」づくり	<p>私のテーマ「大人がかわれば子どももかわる。子どもがかわれば地域もかわる。」 このスローガンをもとに、幼稚園、小学生の保護者に訴える機会が必要。逆に子ども（幼・小）が参加する企画を地域が取り組むことで地域の活性化が図れる。そして、その活動を通して、地域の担い手になってやろうとする人材の確保につながってくるのではないかと。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・現役でもできるよう配慮する ・動機づけ（学校教育、企業） ・トップダウンでなく地域から行政への窓口がほしい ・乗り合いタクシーの補助金ください（歩けない人のため）
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域力（コミュニティ力）は福祉力＋防災力 ・防災は「防災リーダー」を育成し、防災活動の中核を担っている。この事例を福祉に活かし、「福祉リーダー」講座を開設し、リーダー認定する。 ・子どもの見守り（児童委員）、高齢者、障害者の見守り（民生委員）と連携し、よりきめ細かく見守り、コミュニティ（向こう3軒両隣～班レベル）をつくるべし。（リーダー養成は防災リーダーでなじみあり） ・そのための動機づけが必要⇨情報・啓発・体験・広報・指導・共感
	<ul style="list-style-type: none"> ・現役でも参加できるようにする。例えば、企業に対して地元行事に参加しやすくなるようお願いする。 ・地域と行政でできること（するべきこと）を見直す。例えば敬老会は社協か市で実施すべき！
	<p>ボランティア、自治会等地域への入り口作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集まる場作り・・・サロン、カフェ・・・ ・現役でも参加できるようにする（・参加行事をしぼる。（行政でできることは行政で）・人を増やして分散させる）
	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会の組織・重原福祉委員会・赤十字奉仕団 ・自主防災との関係・地域の学校・PTA 役員 ・保健推進員3B体操・魅力がない・子ども会 ・女性にしかできないこと・いきいきクラブ・公民館 ・巴之会。全部合わせて活動すればよいかと思えます。
	<p>地区長 子どもを通じて母親同士会話ができればいい ↓ 地区委員 ↓ 班長 などの縦・横のつながりを強くしたい。それぞれがお互いの顔が見える</p>
	<p>自治会の組織とは？（重原にないため） 下記のグループのまとまりがない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の学校（PTA） ・自主防災 ・公民館役員 ・子ども会 ・生き生きクラブ ・女性にしかできない役 ・保健推進員 ・重原福祉委員会 ・エンゼル広場等 ・赤十字奉仕団 ⇒魅力がない

テーマ	取組の説明
<p>地域における 支え合いの「担 い手」づくり</p>	<p>多くの組織があるが、1つにまとまっていない。→魅力がない。役員の成り手がない。など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校（PTA） ・自主防災会 ・公民館（婦人部・少年部） ・いきいきクラブ ・福祉委員会 ・エンゼル広場 ・赤十字奉仕団、保健推進員 ・サロン <p>全てを1つにしたい</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・重原地区が組織的に1つにまとまり活動ができるようにする。 ・活動が魅力あるものとなるよう、地域全体で考えて進める。 ・まずは、自治会という組織作りをし、系統性をつけ、横とのつながりを深いものとする。 ・地域の中で「あれ？」と思ったことを発言できる場づくり ・女性のOBが活躍できる組織づくりをする。

(2) 北部地区

① 座談会の概要

開催日：平成 30 年 11 月 7 日（水）参加者 24 名

平成 30 年 11 月 20 日（火）参加者 25 名

地域の課題について意見を出し合っていたところ、自治会に加入しない人が増えている、役員・ボランティア等の担い手の不足と高齢化、「顔が見えない」「みんなで集まる場所がない」ことから情報共有や交流が十分ではない、などといった意見がありました。また、合同避難訓練の実施時期と近かったためか、災害時の要支援者への対応者数が不足している、単身でない高齢者でも災害時は要支援者になりうる、など防災に関する意見も多くみられました。

次に、あがってきた地域の課題を踏まえてテーマ（顔の見える地域づくりの実現、地域における支え合いの担い手づくり、安全で安心して暮らせる地域の環境づくり）を設定し、課題解決のためのアイデアを話し合っていました。

その結果、交流の場として地域資源を活用する、地区活動への理解を深めてもらう、多くの人が地域活動に参加できるための基盤づくり、災害時に備えた要支援者の把握と日頃からの手助け、などのアイデアがあがっていました。

「課題解決に向けたアイデア」

■顔の見える地域づくりの実現

- ・交流の場としてお寺や神社、空き家を活用する
- ・高齢者や子どもが集まる場をつくる

■地域における支え合いの担い手づくり

- ・地区役員の仕事の理解を深める
- ・地区役員と民生委員が連絡を取り合う
- ・女性の活用等多くの人が参加できる基盤づくり
- ・仕事量に見合った報酬
- ・地区の人材情報の構築（年齢・人員構成 女性含めて）
- ・多くの人が参加できる基盤づくり

■安全で安心して暮らせる地域の環境づくり

- ・民間と協力した移動スーパーの充実
- ・日常時から災害時要支援者を手助けし、災害時に備える
- ・支援が必要な人を地域で確実に把握し、災害時に即対応できる体制をつくる
- ・ご近所グループをつくり、災害時に要支援者を支援する
- ・地域ボランティアを立ち上げ、民間施設が運営している地域カフェなどを担う
- ・行政、社会福祉協議会、地区が一体となって活動を進める



② 座談会での主な意見

ア) 地域内の課題に関する意見の概要（各班）

(A班) 地域活動が多忙で担い手も高齢化、子どもとの絆づくり、要支援者名簿の活用が課題

地域の仕事がしたくてもできない状況であること、ボランティアの高齢化などの課題があがっていました。町内会に関しては、色々な行事を通じて絆づくりを進めているが、小学校高学年や中学生との絆づくりが難しい、との意見があがっていました。

地域の理解に関しては、要支援者名簿について、個人情報への取扱いが課題であること、また、市がマニュアルを作って地区がアレンジして運用するのが良いのではないかと、という意見がありました。

そのほか、子どもが安心して通学したり遊んだりできるまちづくり、高齢者の二人暮らしが増えていることが課題としてあがっていました。

(B班) 地域活動の担い手の不足、福祉活動への理解が不十分、みんなが集い、交流する場を

地域の問題が共有されていない、働き手の世代が地区の活動に参加していないなどで担い手が不足している、民生委員の高齢化といった課題があがっていました。

また、民生委員や社会福祉協議会が何をしているのかが分からないなど、福祉活動について地域住民に理解されていないといった意見もみられました。

交流に関しては、高齢者、子育て世代、若しくはみんなが集まることができる機会や場所が少ないといった意見や、世代間交流の必要性があがっていました。

安全面については、災害時の要支援者への対応者数が不足、要支援者の救出・救護を担う組長が毎年変わることで、災害時に対応できるか不安である、といった意見がありました。

そのほか、みんなが集まれる公園がない、高齢者を健康面、生活面でサポートすることが大切との意見がみられました。

(C班) 地域活動の担い手の問題、地域に出てこない人への対応、要支援者の把握・対応が必要

自治会への加入率が低いこと、役員の人はやることが多すぎて、他のことをやろうとしても尻込みしてしまう、という意見がありました。

地域の中には、人と話したくない人、障害者・認知症の高齢者で地域に出てこない、地域になじめない人がいて、どうしたらいいかという悩みがありました。

また、民生委員の活動について、任期が長く地域のことをよく知っていることから、任せっきりにせず、活動内容をチェックしてフィードバックすることが大切との意見がありました。

要支援者についての意見では、単身でない高齢者でも地震の発生時間帯によっては要支援者になり得るなど、本当に支援が必要な人がリストアップされているのか気になる、また、要支援者の対応を皆が他にお任せになっているのでは、という意見がありました。

(D班) 各団体の担い手や団体同士の連携の必要性、住民間交流の状況の変化に対応を

役員をしてくれる人がいない、ボランティアが高齢化しているといった意見のほか、自治会、民生委員等の横の連携が必要との意見や、各グループの行っていることがよく理解できない、といった意見があがっていました。

また、住民間での交流について、以前と比べると周りとのつながりがなくなりつつ感じる、世代間の交流がない、あいさつはしても意見交換することはない、子どもが独立して中年夫婦の世帯が多くなったがお互いの交流はない、といった交流状況の変化をあげていました。

そのほか、高齢者に関して、外出しやすいバスの充実、買い物に行けない人がいる、地区内に一人暮らしの人がいるかどうか分からない、などの意見があがっていました。

イ) 主な意見一覧

○地域内の課題

(A班)

分野	意見
地域コミュニティ（組織）	仕事が多すぎてこれ以上取り組めない
	町内会へ入会しない人がいる
	地域の課題。町内会に参加して7ヶ月を経過した町内会の目的の一つが地域のきずな作りであるが、色々な行事できずな作りが進んでいるが、小学校高学年、中学とのきずな作りが難しい
	働く年齢が上がっている → 地域に貢献できない
	人力<期間の延長のためボランティア活動する人材不足
	70歳まで勤めているため、地区の行事に参加者が少ない
	ボランティアの高齢化
	地域へ業務委託することが幅広く多忙を極める
地域の理解	要支援者名簿に個人情報とりあつかい
	マニュアルを市が作成→地区がアレンジする
地域の安全	子供が安心して住める町づくり
高齢者支援	高齢化対策
	高齢者の二人暮らしが増えている
子どもの安全	子どもが安心して通学&遊べるところがほしい

(B班)

分野	意見
地域コミュニティ（組織）	地域の問題が共有されていない
	市と社会福祉協議会がよく話し合う
	社会福祉協議会と地区の交流なし
	地域ボランティアは奉仕の精神にのみ支えられている（無償）
	地域の役員のなり手がなくない
	働き手の世代が地区の活動に参加しない
	要支援者の活動で主に民生委員が対応しているが、民生委員も高齢で活動が困難と聞いている
	担い手が不足している
	民生委員の数が少ない
	5年後、10年後の担い手は？
地域の理解	地域の人が見えていない
	民生委員が何をされているか知らない
	福祉活動に対して、地域住民に理解されていない
	市社協の福祉活動についての理解が住民はなし
	地域福祉という言葉が多分認識されていない
地域コミュニティ（交流）	高齢者、子育て世代がもう少し気楽に集まれる場所があれば…
	地区にはサロンがない
	高齢者が集まる機会（場）が少ない
	みんなが集まる機会が少ない
	みんなが集まることのできる施設場所をつくる
	小中高大学生の地域活動への参加を呼びかける
	老人会、子ども会との交流。情報が発信されるといいと思う
地域の安全	平成24年度より、地震風水害等、異常時の要支援者の救出・救護に組長も対応しているが毎年組長が替わるため、発生時に対応できるか不安
	災害時、要支援者の対応者数が不足

分野	意見
高齢者支援	高齢者が何を望んでいるのか？を把握できていない
	買物はスーパーが巡回しているようだが、本当に必要としている人に伝わっていない
	公園がない。皆が集まる場所がない
	高齢者への健康推進施設がない（北部地区）
	小学生による高齢者訪問激励！
	高齢者サポート法で福祉サポート者を義務化→給料化 →市議会議員制度のように！

(C班)

分野	意見
地域コミュニティ（組織）	地域の中で市外へ出ていく人が多く、疎遠になっていく
	自治会加入率が低く、未加入者のことがわからない
	包括 よく耳にして、職員も来てくれるが、社協は何をしているのか分からない
	新たなアパート入居者は自治会費を頂き加入してもらっている⇔自治会加入への意識がない
	何かやりたい気持ちがあっても役をやると他の役と兼務で一步踏み出せない
	やるが多すぎて福祉まで手が回らない やる気があってもしり込みしてしまう
	1つ“役”をやると色々なことがひっついてくる
	公民館活動のみで手がいっぱい 手が他に回らない
	民生委員兼務等忙しさのあまり、本来の活動ができていないのではないか？
地域の理解	自分の地区でサロンをやっていることを知らない
	サロンの存在を知らない
	何かをやるには民生委員に頼るしかない → でも情報が来なければ、分からない
	地区の役員 任期短く、地域のことが分からない ⇔ 民生委員 任期長く地域のことをよく知っている
	地区のことをよく知る民生委員と市との関係・連携が必要では？
	民生委員の活動内容のチェック・フィードバック
	民生委員にまかせっぱなし
	ひとつの仕事は、10年単位で力をつけていかないといけない

分野	意見
地域コミュニティ（交流）	人と話したくないという人が地区活動に出てこれるようにするには、どうしたらいいか
	「向こう三軒両隣」の輪が広まれば…
	障害者・認知症高齢者で地域に出てこない、なじめない方が多くいる
	高齢者でも出てくる人は良いが
地域の安全	要支援リストの情報のレベルアップ
	要支援者名簿中身の精査が必要（本当に支援が必要な人がリストアップされているか）
	要支援者への対応について、皆が他へお任せになっている
	元気な老人把握
	単身でない老人でも、地震発生時間により要支援者となりうる
高齢者支援	あまり付き合いをやらない人は色んなところに出にくい
	高齢者がどこにいるのかわからない

(D班)

分野	意見
地域コミュニティ（組織）	自治会、民生委員、保護司等の横の連携がほしい
	民生委員さんも会議に来てほしかった
	民生委員との交流がない
	各グループとの交流がない
	地区内の組織間の意見交換の場がない
	地域内の各役員をやってくれる人がいない
	地域住民の方で、自治会に加入しない人が増えている
	ボランティアの高齢化
	役員の任期だけ頑張る
	地域の理解
各グループが行っていることがよく理解できない	
民生委員として要対応者への調査でプライバシーの問題になかなか入り込めず、適切な対応に困る	

分野	意見
地域コミュニティ（交流）	多文化共生コミュニティの広がり
	以前と比べるとまわりのつながりがなくなりつつあると感じる
	アパート、マンションが増え、付き合いがない 内部ではどうなのか？
	自分の家のまわりは子どもが独立して外へ出て行き、中年夫婦の世帯が多くなったが、互いの行ききがない（人は多様）
	隣近所のつながりがない、あいさつはたまにある、意見交換は皆無
地域の環境	お店、お茶飲む場所がない
	子どもの遊んでいる姿が少ない（少子化のせい？塾のせい？）
	高齢者が外に出かけられるよう公共施設道路バスの充実を図ってほしい
	「ゴミ0」を活用して地区を回る（取り組み）
	自動車通行量が多く、キケンであるが対策がされていない
高齢者支援	老人宅で不用品の整理をしてくれる人がいない
	買物に行けない独居老人が居ても救いの手がない
	買物にも出かけられない人への差しのべる手がない
	移動が困難な老人等の人を支援できる人がいない
	高齢者にとってスーパーが近くになく買物が大変です
	高齢者の方への情報が伝わりにくい（配食サービス）
	高齢者の方の「サロン」「交流会」を月一ぐらいやりたい（予算、ボランティア）
	世代間の意見交流がない
	支援者との支援がないため、どのようにしてあげればいいのか分からない
	アパートや住宅の中で一人暮らしの老人がいるのか分からない
	もっと手をさしのべなければいけない高齢者の方の支援はどうすればよいか

○課題解決に向けたアイデア

テーマ	取組の説明
地域における支え合いの「担い手」づくり	担当役員の仕事の理解不足 ↓ ・仕事内容の説明 ・拘束時間の短縮 「やってみると良かった！」
	・人材がない ・役員の報酬を上げる ・女性も地区役員に入ったら？ ・市の会議を土日にしたら？
	手当を上げれば？
	・地区の人材情報の構築（年齢・人員構成 女性含めて） ⇒担い手をサーチできる
	人材不足 役員の仕事量が多い 奥様の存在→否定的 手当を増加させる
	・手当を上げる 魅力ある役に ・土日に市の会議行事を実施する
	・市役所の定年者を地区役員にしては？ ・地区役員と民生委員の連絡を取り合った方がよいのではないかと心配している人もいます。 ・やりたくないという人が多いのも一つの原因かもしれない。
	①役員の人選を何年も先に決めておく ②公職者の方を地区の重要なポストに配置する ③地区の役割、公民館の役割、市の役割を軽減する ④報酬を増やす（特に婦人部）
	①地域づくりに有志を呼んで、仕組み、楽しさ、大変な役目について講演会を開く ②コミュニケーションづくり ・家庭訪問の実施
	・地区役に市役所を定年した人がする 市からの給料で ・市から指名する ・仕事量の多い役は奉仕料をそれなりに ・ボランティアでなく仕事として
	ネガティブ意見しか見つからなかった 答えなし しかしネガティブ→ポジティブに変化 （最終的に抽象的な言葉で結論づけしてほしくない。） ボランティア→報酬が必要 高齢者の雇用
	・地区役員のなり手は少ないので、年齢別に順番制にする。 ・少しの報酬があれば、やる気も出る（ボランティア活動） ・市役所勤務者の定年後大いに活躍する
	ボランティアよりも対価を考えては？何でも無償でボランティアは大変難しい。地区の役員は仕事が多すぎる。
女性の活用を！ 報酬のあるボランティアをつくれればよい	

テーマ	取組の説明
地域における支え合いの「担い手」づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉計画を進めるために、市が地区に具体的に相談や指導をしてほしい。 ・人選についても… <p>多くの人に参加できる基盤づくり。だれも見れば行動できる手引書をつくる必要がある。</p>
「顔の見える地域づくり」の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・各組織の連携・交流が希薄だが、どこが、どれだけやればよいか疑問。 ・場所が少ない→お寺や神社を使用してはどうか。 ・祭りや町内運動会など老若男女が集まる機会はあるが、世代間での話し合いがない。 <ul style="list-style-type: none"> ・交流の場がない 昔からあるお寺や神社、空家の活用 →まずは集まる→“次”は不明？ ・団体間の交流がない、少ない 「個人情報保護法」がネック 行政の縦割りがネック（名簿→向こう三軒両隣で十分か？） <ul style="list-style-type: none"> ・各団体との交流が？ ・空家をフルに使用し交流をする <ul style="list-style-type: none"> ・場所がない 地域にあるお寺を利用←定期的に開放 住職のお話 高齢者・子どもが集合 ボランティア
安全で安心して暮らせる地域の環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の要援護者の支援について。防災の取り組みの中で、地区と民生委員等で取り組んでいるが、まだまだ問題は山積している。 ・行政（市）で北部地区にも公的な高齢者の集える様々な機能を備えた場所を設置していただきたい。 ・民間と協力して移動スーパーの充実を図っていくと、住みよい地域につながると思う。 <p>要支援者の異常時対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要支援者のご近所グループで支援する（災害時の安否確認。救出・援護する） ・日常時の手助け、ボランティア活動の実現 <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害時、要介護者の支援体制充実 具体策 おとなり支援体制づくり 現実はおとなりさん同士が要介護者を支援する 現状 組長、防災、民生委員による体制はあるが災害時相談はするか疑問 2. 高齢者買物対応（移動困難者対応） 具体策 移動スーパー等買い物できる仕組みづくり <ul style="list-style-type: none"> ・まずは、地域ボランティアを立ち上げ、現在、民間施設が運営している地域カフェなどを担うかたちをつくっていく必要がある ・支援が必要な人を地域で確実に把握し、災害等が起きた場合に即対応できる体制をつくる必要がある。 <p>仕事を行っている人でも地区の役員を担当できるよう平日の会議をなくす。 （市の会議、市の行事など）</p> <p>行政、社会福祉協議会、地区が一体となって活動を進める（たぶん、おもしろい、やりがいのある仕事になっていく）（地区役員式）</p>

(3) 南部地区

① 座談会の概要

開催日：平成 30 年 11 月 28 日（水）参加者 18 名

各地区の福祉委員会では、市民だよりを用いた見守り活動、サロン活動や地域の交流会等の取組を通じて団体同士がつながり、協力し合うことで活動が活発化しているなか、まず、各地区の課題をあげていただきました。サロンへの参加者が減っている、世代間交流の機会が少ない、福祉に関する情報が地域住民に行き届いていない、などの意見があがっていました。

次に、あがってきた課題に対し、今後各地区の福祉委員会でできそうなことについてアイデアを出していただきました。その結果、地域活動への理解者を増やす、子どもから参加できる仕組みをつくりイベントへの参加者を増やす、寺など地区内の様々な建物を活用したイベントの実施、団体同士の連携や地区を越えた連携、サロン同士の連携などによるイベントの充実、といった意見があがりました。

「課題解決に向けたアイデア」

- ・子どもと高齢者をイベントに招待する
- ・寺など様々な建物を活用する
- ・サロンへの男性の参加者を増やすために男性が多い所でPRする
- ・他の地区と共同でイベントを開催し、交流する
- ・現在行っているイベントの内容を充実させる
- ・まちの自慢を披露して活動に興味を持ってもらう
- ・住民が趣味や特技を活かせる場所があるとよい
- ・市民だよりを手渡しし、安否確認を行う
(独居高齢者等)
- ・サロンにおいて防災や防犯に関する解説を行う
- ・障害のある人やひきこもり等を対象にした活動との連携
- ・他の地区の取組を参考にする
- ・他の団体と連携することで、既存の課題を解決する



② 座談会での主な意見

ア) 地域内の課題に関する意見の概要（各班）

（A班）地域資源を活用した交流の場づくりで地域活動への参加を促進してはどうか

課題として、現在、老人クラブ同士の交流がない、近所の人と話す機会がない、サロンに参加したいが遠くて参加できない、といった交流に関することがあがりました。また、子ども会に入らない人が増えているなど、子ども会に関する意見、ボランティア等人材に関する意見、地域に出てこない人がいる、有事の際に他の人に気をかけられるか心配といった、支援に関する意見があがっていました。

課題に対し取り組んでいることとして、福祉委員会の会議等で交流・情報交換、ラジオ体操、寄ってってサロンがあがりました。

今後できそうなこととして、子ども会の仕事を楽にする、子どもと高齢者をイベントに招待する、寺などの様々な建物を活用するなど、子どもの地域活動への参加方策や、交流の場づくりに関する意見があがっていました。また、独居の高齢者に対し、市民だよりを手渡しにすれば安否確認ができる、といったアイデアも出ていました。

（B班）地域活動のあり方を話し合い、理解者を増やし各団体が連携して活動の活性化を

課題として、高齢者が気軽に集まれる機会が少ない、男性の高齢者が行くことができる場所が必要である、などの交流に関する意見や、組織に関して、ボランティアへの理解者や地区で活動するボランティア団体の少なさ、地区のリーダーの育成、役員が多忙であるといった意見がみられました。また、地区に住む認知症の人への対応が分からない、といった意見もあがっていました。

課題に対し取り組んでいることとして、麻雀大会やカラオケ愛好会、認知症カフェがあがりました。

今後については、各団体の会長とともに福祉委員会のあり方を話し合う、地区オリジナルの役割の設置検討、他の団体との連携により課題の解決を図る、まちの自慢を披露して活動に興味を持ってもらう、といった活動の活性化に関する意見がみられました。

（C班）子どもから高齢者まで地域の活動に関わる仕組みがあればよい

課題としては、地区内で困っている人を見つけにくい、気軽に相談できる場所がない、認知症への対応が分からない、といった支援に関する意見、イベントに子どもたちが参加するか心配、子ども会への加入率が低いなど、子どもに関する意見があがっていました。また、役員の負担感の重さ、高齢者サロンのマンネリ化などが課題としてあがりました。

課題に対し取り組んでいることとして、市民だよりを使った見守り活動、月1回の市民館における相談窓口の開設、認知症に関する勉強会の開催があがりました。

今後に向けては、住民が趣味や特技を活かせる場をつくること、高齢者と子どもが触れ合えるサロンがほしい、子どもが地域のイベントを計画する段階から関わることでよい仕組みがあればよい、といった意見もあがっていました。

(D班) 福祉委員会の組織力の強化と、近隣地区と共同の行事を行ってはどうか

課題として、高齢者が集まることができる場所が偏っている、男性が集まる機会が少ない、世代間交流の機会が少ない、といった交流に関する意見が多くあがっていました。また、ひきこもりや認知症、買い物難民の高齢者への対応に関する意見、社会福祉協議会との連携、若い世代のボランティアが少ない、必要な情報が入ってこない、などといった意見があがっていました。

課題に対し取り組んでいることとして、おげんきサロンがあがりました。

今後に向けて、サロンについては、男性の参加者を多くするために男性の多い場でPRをする、南部のサロン同士のつながりを持つこと、サロンでの防災・防犯・地域包括支援センター等の説明を行ってはどうか、といった意見が出ました。また、近隣地区との話し合いや行事の共同開催で福祉委員会同士、各団体同士の連携も深めてはどうかとの意見、福祉委員会の支援・育成に市や社会福祉協議会は力を入れてほしい、などの意見もみられました。

(E班) 福祉委員会で役割分担を行っていき、地域活動を充実させることが大切

課題として、世代間交流できる機会がない、心配な人がどこに住んでいるか分からない、サロンに行くことができない高齢者への支援、などといった交流に関する意見が多くあがっていました。また、心配な人がどこに住んでいるか分からない、福祉に関する情報が地域住民に十分に伝わっていない、などの意見もあがっていました。

課題に対し取り組んでいることとして、クリスマス会での地域内交流、ワイワイフェスタへ高齢者を招待、要支援者のいる世帯を示したマップ作りがあがっていました。

今後について、福祉委員会ではクリスマス会のように役割分担を行うことで負担を分け合っていくことが大切だとの意見があり、また、防犯も防災も福祉委員会につながることであり、福祉委員会が全ての地域の土台になるのでは、という意見もありました。サロンについては現状維持とし、元気な高齢者はそれぞれの趣味を楽しんでもらえれば良いという意見でした。クリスマス会やワイワイフェスタについては、中身の充実が必要との意見があがっていました。

イ) 主な意見一覧

(A班)

○課題・意見

項目	課題・意見
交流	老人クラブ（いきいきクラブ）同士の交流がない
	情報共有ができていない
	近所の人と話す機会が少ない
	サロンへの参加者が減少している
	サロンに参加したいと思うが、遠い
	地域に居住している外国人との関わり
	転居してきた世代が地域とつながりを持ちにくい
子ども会	近所に集まれる場所がない
	入会する人がいない
	会員が少ない
人材	役員を務めたくない人が多い
	ボランティアの人数が減少している
支援	新しいことに取り組みたいが、人が不足している
	外に出てきてくれる人は支援できるが、出てこない人は支援を必要としても支援できない
	有事の際における要援護者への支援をどうするかという課題がある
その他	有事の際、他の人のことを配慮できるかどうか心配である
	地区内で建物があるエリアが限定されている

○課題に対し、取り組んでいること・今後できそうなこと

【取り組んでいること】

項目	取組
交流	福祉委員会の会議等を通じた交流・情報交換
	ラジオ体操
	寄ってってサロン

【今後できそうなこと】

項目	取組
交流	クリスマスパーティーを実施したい
	子どもと高齢者を招待する
	寺など様々な建物を活用する
	物があれば人が来るので、商品券を利用する
子ども会・人材	準備は子ども会の力を借りる
	子ども会の仕事を楽にしたい
支援	市民だよりを手渡しし、安否確認を行う→全員ではなく独居の高齢者など本当に必要な人にのみ手渡しする
全般	他の地区の取組を参考にする

(B班)

○課題・意見

項目	課題・意見
交流	高齢者が気軽に集まれる機会が少ない
	男性の高齢者が行ける場所が必要である
	フローラルガーデンの活用
	誰でも参加できるサロンがほしい
	世代間交流の機会が少ない
組織	リーダーシップを発揮できる人材が必要である
	忙しい人が多く、集まるのが難しいため、1人が3~5つの役割を担っている
	地区で活動するボランティア団体が少ない
	ボランティアへの理解者が少ない
その他	スーパーが遠い
	地区に住む認知症の人への対応方法がわからない

○課題に対し、取り組んでいること・今後できそうなこと

【取り組んでいること】

項目	取組
交流	麻雀大会
	カラオケ愛好会
	認知症カフェ（ほっとカフェ）

【今後できそうなこと】

項目	取組
組織	各団体の会長さんとともに福祉委員会のあり方を話し合う
	地区オリジナルの役割を設けることを検討する
全般	他の団体と連携することで、既存の課題を解決する
	まちの自慢を披露して活動に興味を持ってもらう

(C班)

○課題・意見

項目	課題・意見
支援	民生委員の負担が重い
	地区の中で困っている人を見つけるのが難しい
	気軽に相談できる場所がない
	認知症の人への対応方法がわからない
子ども	イベントに子どもたちが集まるかどうか心配である
	子どもをどのように巻き込むか
	子どもに関する分野に課題がある
	子どもだけで遊ぶことが少なくなった
	親も子どもも忙しいため、子ども会への加入率が50%と低い
	子どもの貧困はあるかもしれないが、該当者は少ないのではないか
交流	高齢者サロンはマンネリ化している
	サロンへの参加は、参加者同士の相性も影響しているかもしれない
組織	役員になると大変である
	しがらみが多い
	やりたくないことや、やらなければならないことが増えていく
その他	地域福祉計画は最上位計画である
	福祉が最上位に位置付けられるものである、優先順位が高い
	福祉委員会は自治会や公民館での活動よりも上位に位置付けられるべきである

○課題に対し、取り組んでいること・今後できそうなこと

【取り組んでいること】

項目	取組
支援	市民だよりの配布と合わせた見守り活動
	1カ月に1回、市民館に相談窓口を設けている
	平成29(2017)年度に認知症の勉強会を開催

【今後できそうなこと】

項目	取組
交流	マーじゃんとグランドゴルフはできる
	お寺で行われていた「はなまつり」があるとよいと思う
	住民が趣味や特技を活かせる場所があるとよい
	高齢者と子どもが触れ合えるサロンがほしい
	昔の遊びを子どもたちとできるとよいと思う
	公民館の活動として、おこしものづくり教室を実施
子ども	子どもが計画段階から関わることができる仕組みがあればよいと思う
	子ども会の会長は、いきいきクラブの会長が務めてはどうか
	子どもに関するアンケートの結果をまとめており、新プロジェクトを検討している
全般	検討を継続していく
	市議会議員にも関わってもらう

(D班)

○課題・意見

項目	課題・意見
交流	趣味のない人が集まる機会がない
	世代間交流の機会が少ない
	男性が集まる機会が少ない
	高齢者が地区内で集まれる場所が偏っている
	地区のイベントに参加しない人が多い
	近隣住民のつながりが全くない地域がある
支援	認知症の人への対応がわからない
	ひきこもりの高齢者をどうするか
	買物に不自由している高齢者がいる
	支援が必要な人の人数が多くてきめ細かくできない
連携	南部の社協と地区とのつながりが少ない
組織	地区内における福祉委員会の位置付けが不明である
	若い世代のボランティアが少ない
情報	必要な情報がなかなか入ってこない
	サロン等のPRがたりない
	高齢者へのPR方法が不十分

○課題に対し、取り組んでいること・今後できそうなこと

【取り組んでいること】

項目	取組
交流	おげんきサロン

【今後できそうなこと】

項目	取組
交流	グラウンドゴルフやカラオケで他の地区と交流できる
	市や社協が音頭をとって、南部におけるサロン同士のつながりを形成する
	気軽に入れる雰囲気づくり
	男性の参加者を増やすために、男性が多いところでPRする
連携	近接している地区との話合いや協同行事などもあってもよいのでは
	他地域、他団体等との連携、行動
	他の地区と共同で（福祉委員会どうし、福祉委員会と他の団体）開催する 障害者や引きこもり等を対象にした活動との連携
組織	地区からのバックアップ。例えば倉庫や事務所など
	福祉委員会への育成支援に力を入れてほしい(市・社協)
	福祉委員会の立ち位置を明確にする。フローチャート等がはっきりしていなければ活動を広げられない
情報	福祉委員会の資材・資源を収集し、整理する
	社協が刈谷市全体の活動内容をまとめる
	反省点も含めて、市全体の活動事例を把握しておく
	サロンにおいて防災や防犯などに関する解説を行う

(E班)

○課題・意見

項目	課題・意見
交流	サロンに行けない高齢者への支援
	世代間交流ができる機会が少ない
	地区の行事への男性の参加者が少ない
	地区の活動に参加しない人をどうするか
	若い人に地域に参加してもらうにはどうすればよいか
	サロンに参加する男性が少ない
	サロンに同じ人ばかりが参加している
情報	心配な人がどこに住んでいるかわからない
	福祉に関する情報が地域住民に十分に伝わっていない
	市から出された名簿にあがっていない人がいる
担い手	やむを得ないが、ボランティアの担い手が少ない

○課題に対し、取り組んでいること・今後できそうなこと

【取り組んでいること】

項目	取組
交流	地域交流クリスマス会
	ワイワイフェスタに高齢者を招待する
情報	要支援者のいる世帯を示したマップ作り

【今後できそうなこと】

項目	取組
交流	サロンは現状維持に努める→元気な高齢者はそれぞれの趣味を楽しめばよい
	クリスマス会やワイワイフェスタなどの中身を充実させる
担い手	福祉委員会を利用する
	クリスマス会のようにする→役割を分担し、負担を分散させる
	防災や防犯も福祉委員会につながる 福祉委員会が全ての地域の土台になっていくと思う